

特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘 2022 年総会報告書

■開催日時 2022 年 5 月 22 日(日) 午後 2 時 40 分～午後 4 時 20 分

■開催場所 仙台幼児保育専門学校 体育館

■審議事項

- (1) 議長選任の件
- (2) 議事録署名人の選任に関する事項
- (3) 2021 年度 活動報告
- (4) 2021 年度 決算報告
- (5) 2022 年度 活動計画
- (6) 2022 年度 収支予算
- (7) 就業規則の変更
- (8) 36 協定（時間外、休日労働に対する協定）について
- (9) 役員改選
- (10) その他 社会保険加入の義務拡大に伴う変更の件

■議案審議

(1) 議長の選任／総会の成立宣言

●議長の選出

志賀義之理事長が、出席者に議長の立候補を募りました。

立候補者がいなかったため、永浜賢道氏(利府西部児童館館長)を推薦いたしました。

理事長が出席者に賛否を問い、全委員一致で永浜氏を議長として承認しました。

●議長により、総会の成立宣言。

5 月 1 日現在の正会員数は 213 名。議決権総数は 213 名となっています。

正会員数の過半数の参加によって成立します。(定款第 27 条)

出席者は 113 名、委任状出席者は 96 名。合計 209 名で、正会員の過半数の参加がありましたので、総会の成立を議長が宣言しました。(定款第 27 条)

(2) 議事録署名人の選任(2 人)

●議事録署名人の選出

永浜議長が出席者に議事録署名人の立候補を募りました。

今野久美子氏(仙台市通町児童館館長)と、須藤達也氏(仙台市荒巻マイスクール児童館館長)

が立候補。志賀理事長が出席者に賛否を問い、全員一致で上記の 2 名を議事録署名人として承認しました。

(3) 2021 年度 活動報告

●永浜議長が議事を進行しました。

平山理事長が①子どもの笑顔元気プロジェクト ②各施設での活動報告 ③宮城県中央児童館 跡地活用 ④関係団体との連携 ⑤市町村の指定管理者の公募について報告しました。続いて、志賀善之理事長が⑥魅力的な研修会 ⑦イベント報告 について報告しました。

最後に平山理事長が⑧処遇改善について報告しました。

■ 2021年度実績は以下の通り

①「子どもの笑顔元気プロジェクト」

□下記の活動に取り組みました。当法人は事業にかかわる職員を派遣しました。

○子どもミュージカル

- ①子どもミュージカルプロジェクト in わたり 2021年11月28日(日)
- ②子どもミュージカルプロジェクト in いわき 2022年2月6日(日)
- ③みやぎ県政だより3.4月号で山元町でのミュージカルを取り上げていただきました。

活動の報告は以下のブログでおこないました。(http://egaobus.kodomonooka.com/)

②各施設での活動報告

■岩切児童館

「児童館の特性を生かしながらの運営をどう行うか」をテーマに皆で考え運営を行いました。

○児童健全育成事業

コロナ禍の中で子ども達の居場所をどうつくっていくか悩み考えた一年でした。児童館での遊びを通して子ども達が学び考えることができるよう、日常的な遊びや関わりの中で起きる出来事を共感し話し合える様スタッフ皆で心がけました。

○子育て家庭支援事業

児童民生委員さんやいわきり子育てネットワークのメンバーとお互いの情報交換につとめ、今年度の「IkoNet」のリーフレットは防災についてを作成しました。児童館に来館した保護者には、ゆったりと過ごしてもらえるように、子ども達の様子を一緒に見守りながら、保護者との対話を大切にコミュニケーションを図ることを基本として接しました。

○地域交流推進事業

コロナの状況をみながら工夫し会議や集まり等を行いました。コロナだから活動しないのではなく、感染対策をしながら子ども達の為に地域の為になにができるかを模索し、情報交換をし、「太神楽」観劇や「SDGsについて考える」など事業を行うことができました。

○放課後児童健全育成事業

新1年生が多いためにどうしても密になる状態があり、どう感染リスクを下げるか常に考えまた、なかなか集団生活のルールが身につかない等課題も多くありました。スタッフ一人一人が知恵を出し合い、子どもの様子や生活を見直し、各々のスキルアップと共に年度末には集団遊びができるようになるなど成長を喜び合うことが出来た一年でした

■鶴巻児童館

地域の協力を得ながら児童と地域が繋がる行事を企画し、地域と共に成長する児童館を運営することができました。また、児童の社会参画、自己実現を図る事業にも多く取り組み、主体的に参加する姿勢を子どもたちに育むことができました。

○児童健全育成事業

詩人武田こうじ氏に脚本と演出をお願いし結成12年目となる子ども劇団「わんにゃんぶう」は、今年はコロナの影響で文学館での公演はできませんでしたが、武田氏とラジオ番組にて発表することができました。

また、4年生から中学生までの子どもボランティアを募り、館の主催行事「こどものまち」の企画運営、児童館行事の補助など行い、地域のリーダー育成を目的に活動しました。

○子育て家庭支援事業

「スタッフのおはなし会」は、季節の絵本の読み聞かせを行う他、参加した親子に対して児童文化財の面白さを伝えることができました。

また、「ほっとカフェ」というサロンを企画し気軽に参加してもらえるよう実施しました。

宮城野区まちづくり推進課主催「はっぴいママ」の企画に取り組み、コロナ禍でも鶴巻地区で安心し子育てができる環境や関わりがもてるよう支援してきました。

○地域交流推進事業

「つるまきハロウィン」では、例年と内容を変更し開催しました。近隣の公園やサテライト室でお菓子を配りました。子ども達から自宅で仮装した姿の写真を応募していただき、地域の店舗や施設21か所に投票してもらい、結果をお知らせにその後施設に伺うことで子どもたちは満足できた行事とすることができました。

○放課後健全育成事業

コロナの影響で各家庭には利用自粛の願いをしたり、登館時の検温、マスクの着用の声掛け手指消毒をはじめとした感染対策や、密接を避ける座席の配置などを工夫しました。放課後の時間を、子ども達が落ち着いて過ごすことができるよう、職員のスキルを活かし充実した時間になるように工夫することができました。

■通町児童館

「みんなで作る児童館・子どもの文化を大切に」を新たな視点で捉え活動しました。

○児童健全育成

5歳児から中学生、特別支援学級の子どもが応募した「イラストコンクール」「謎解き・なぞなぞ問題募集」等、来館しなくても個々の力を発揮し遊ぶ「機会」作りを行いました。少人数でも役割を見直して実施した「こどものまち」は、子どもの手で2ヶ月かけて準備し大いに盛りあがりしました。

○子育て家庭支援

申し込みを取らず、自由来館で楽しめる設定で、彩りバルーンの日、太鼓がいっぱい、布絵本、人形ぬいぐるみデー、楽器とキーボード、地域からのおさがりの会等を実施しました。全館使用のハロウィンや駐車場での「映写写真・鬼さんと一緒」は通りすがりの若者や親子連れにも好評でした。

○地域交流促進

地域から寄贈の二千個の折鶴を活用し、乳幼児親子や子どもが作成した七夕飾りをコミュニティセンターや保育園・商店など6ヶ所へお届けしました。干し柿作りは市民センターの手を借りレシピ付きで1200個を地域に配布、保育園幼稚園の協力で「食育・おやつ、幼児期に食べさせたい食事」を館便りに連載中です。二つの市民センターの発表会へ子どもの作品120点を展示し、他館6館との「ペタンク交流会」にも参加しました。

○児童クラブ

子どもの遊びや行動、心持の把握に努め、小学校との連携を強化し、校庭をお借りし発散できるよう外遊びを増やしました。少人数でじっくり遊べるおもちゃの導入や生活の見直しをおこないました。玄関には子どもの写真や作品を掲示しました。保護者からの多くの相談には、家庭とつながりともに考える丁寧な対応を心がけました。

■八本松児童館

仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い、『地域でつながる・あそびでつながる児童館』を念頭におきコロナ禍でも利用者に寄り添った居場所となれるよう取り組みました。

○健全育成事業

地域に開かれた児童館として利用者ニーズに応じた関わり方を意識し、コロナで中止ではな

くできることをできる限り取り組みました。中高生世代の居場所づくり【エイトベース】を助成金を活用して実施し、中高生世代からニーズを集めて配置することで利用しやすく、不登校気味の生徒がこれをきっかけに学校に足が向くようになったことが大きな成果となりました。

○子育て支援事業

児童館周辺で職員が見回り・声掛けの際に不安な気持ちを聞き応えることをしてきました。児童館が再開した後も、その繋がりが継続し安心して子育てができる環境づくりや、妊娠期支援事業【はぐはぐ】を実施。出産を控えたプレママ・パパに対して、助産師からの講話や育児体験を通して出産後の不安を少しでも取り除けるよう取り組むことができました。

○地域交流事業

どんぐりマーケットは、地域包括支援センターや中学校などの団体の他、個人出品が昨年度よりも多くなり、来場者も増加し地域としても楽しみにしてもらえる事業となりました。また、厚生労働省の緊急時における児童館の活動・モデル事業として防災プロジェクトを町内会や社協、中学校からの協力で実施し、地域で防災を体験を通して深めることができました。

○放課後健全育成事業

参画のはしごを意識し、放課後の時間が充実した居場所であり子どもの声をカタチにできる子どもを真ん中にした事業を展開しました。子どもの良いところを探して声掛けする他、個を認め自信を持って何事にも取り組めるよう支援し、保護者へも伝えてきました。また、聴覚障害児を受け入れ、職員が手話を習得し橋渡しできるよう支援をしました。

■荒巻マイスクール児童館

コロナ対策も2年目となり、公共施設としての信頼を損ねることのないよう基本的な感染対策を継続し、Withコロナ時代の児童館運営を意識しつつ4つの事業領域に取り組みました。

○児童健全育成事業

基本的なコロナ対策をしながら「つくってあそぼう」・「ボドゲのじかん」・「子どもスタッフ」などの行事・活動を継続し、職員の支援の下で、自分の思いをカタチにすること、仲間と一緒に活動すること等の中から主に小学生を対象に“自分”を育てることを意識した事業の組み立て直しを行いました。

コロナ対策の一環で、人の密をつくらずに活動できる工夫として、オンラインの活用や家庭内で取り組む活動（つくってあそぼう/子どもスタッフ）を、適宜、取り入れながら行いました。

○子育て家庭支援事業

登録制の幼児クラブや、申込制の行事「げんきにあそぼう」のほか、平日午前中の親子の自由来館の時間を使い、幼児親子の遊びの場所や時間の提供に努めました。

○放課後児童健全育成事業

利用を控えるご家庭が増えて連絡カードだけでは保護者との情報共有が難しくなったことから電子メールを活用して保護者との情報共有に取り組みました。

また、児童館以外での仲間との遊びの制約が増えた状況を踏まえ、子どもたちと感染予防対策に取り組みながら遊びプログラムの充実を図り、「児童クラブが、楽しく、気持ちの充電ができる場所」となるよう努めました。これまで続けてきた「他児童クラブとの交流」は、集まらずにできる内容を工夫して継続しました。

○地域交流推進事業

共催の行事を始め、地域内の施設や団体の活動が取りやめになる中で、実現できた行事（ペタンク大会）については積極的に参加するとともに、新しい事業の連携相手探しに努めました。令和4年度に新規の連携相手との連携事業を始めます。

■立町マイスクール児童館

仙台市のガイドライン・団体のガイドラインをもとに、新型コロナウイルス感染症対策を取り、不安を抱えている人には寄り添いながら、少しでも前向きになれるような活動を続けた一年でした。

○児童健全育成事業

話を聞いて欲しくて立ち寄る中学生は、コロナによる様々な環境の変化に不安を抱えている様子が見えいつも以上に丁寧な関りを心掛けました。夏休み中にボランティア体験を希望していた多くの高校生を受け入れ、児童館という場所を実体験できる機会を設けました。

○子育て家庭支援事業

概ね0歳～1歳6か月・1歳6か月以上の二つのグループに分け、月齢・年齢に囚われず発達や興味関心に応じて参加日を選べるようにし、より参加しやすい形を目指しました。

また、活動日には発達相談支援センターの地域相談員に来ていただき、育児相談・発達相談が気軽にできるような体制をとりました。近隣の西公園を会場に青空児童館も実施し、コロナの心配から館内活動への参加を控えていた親子のリピーターも増えてきました。

○地域交流推進事業

「ばんすいパトロール隊」を結成し、子どもたちが自らの通学路を点検したり、地域の安心おすすめマップやポスター作りに取り組みました。マップ作り際には、地域の方々や保護者からも様々な情報や思いを寄せてもらい、みんなの思いの詰まった形にすることができました。

また、感謝の思いを七夕飾りやハロウィンモビールにし、地域の方々にお届けしました。

○放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

創作活動が好きな子たちがいつでも取り組めるように、廃材を集めて自由に使えるコーナーを作ったり、物語作りが好きな子が絵本作りに取り組んだり、野菜を育てることに興味がある子と共にプランターや畑で野菜を育て収穫体験をするなど、それぞれの子どもたちの思いを汲み取って実現できるように工夫を凝らして一年を過ごしました。

■芦の口児童館

○児童健全育成事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、小中高生の利用を制限せざる負えない状況で小学生は土曜日9時30分～11時30分迄、中高生は土曜日14時～16時まで利用時間を決めました。

利用者は少ないものの、館だよりやブログで児童館の様子を発信したり、「おうち時間応援セット」を渡して繋がりを保つよう努めました

○子育て家庭支援事業

助産師さんが母親達の相談を個別で相談を受ける「ことりる一む」では母親達に乳幼児の発達に必要なことは十分に愛された実感と遊ぶこむことだと励ましながら相談に丁寧にのっていただきました。

また、月に1～2回乳幼児親子対象の行事は参加組数を決め予約制で行いました。毎回好評で親子で楽しく参加していただきました

○地域交流推進事業

「子育て支援クラブあしっこ」は館行事の協力や主催行事は子育てを終えた会員と子育て中の会員が和気あいあいと行っています。行事を児童館と共催したり、館だよりの「あしっこラム」や、「野菜・花育て隊」を実施し地域の方々に発信、児童との交流を行いました

○放課後児童健全育成事業

コロナ禍という状況の中、クラブでは3密を避け、遊び方を工夫しながらストレスなく楽しくすごせるように工夫してきました。特に、長期休業日は小学校の施設や備品を借用したりするなど協力をいただきました。大きなケガや事故やいじめがおきないよう職員体制を手厚く

しました。

また、支援を要する児童に適切に対応するため団体独自で「児童館サポート事業」に取り組み、その考えを基本に個人記録の作成や「こどもアンケート」を実施、その後「おしゃべりサロン」を行い、児童一人一人を理解し丁寧に向き合うことを心がけ、子どもたちが安心して過ごし、互いが支え合い、育ちあう余裕がもてる支援と運営を今後も続けていきたいと考えています。

■錦ヶ丘児童館

児童館での新しい生活習慣が定着し、様々なお約束を守りながら生活をしました。児童館の役割を忘れず丁寧に関わる事を大事にし、子どもたちの、意見やアイデアを取り入れながら遊びの充実を図ることで、子ども達が遊びに夢中になる姿が見られました。

○放課後児童クラブの運営

楽しく生活をする事を忘れずに、身体を使った遊びと手先を使う遊びを充実させました。密にならないように、遊びを予約制にしたり、時間を決めたりしてメリハリを付ける事で子ども自身が計画を立てて遊べるようになりました。保護者との連携を充実させ、いつでも相談できるような関係性がもてるように努めました。支援の必要な子どもたちの居場所の充実や合理的配慮を心掛けました。

○児童健全育成事業

自由来館の受け入れが出来る時は、必要に応じて受け入れをしました。土曜日の自由来館では影絵劇団「つきのえ」に参加してもらい、感性を伸ばす場所として開放し横のつながりを充実させることができました。

○子育て支援事業

子育て支援クラブ『にしきらりん☆』のイベントの支援をしました。自由来館で来る乳幼児の親子にも楽しく遊んでもらえるように配慮をし、「陽だまり」では子育てに悩みや不安がある保護者に寄り添いました。登録制の「幼児クラブ」やお話し会に参加していただき、お友達作りのお手伝いをしました。

○地域交流推進事業

地域の方々との連携や情報交換をしながら緩やかに手をつないでいけるように努めました。ふるさとを大事に思えるように、今後の取り組みを考えたり、地域での子どもの様子や困り事等の意見を聞く場に参加をしました。

■利府西部児童館

健やかな成長発達及びその自立を図ることを地域の中で具現化する児童福祉施設」ということを踏まえ、改訂児童館ガイドラインに沿った運営を念頭に、東部児童館・児童クラブとともに参加する環境作りを進めてきました。コロナウイルス感染症の状況を確認し予防に努めてきました。

現在も先も見えない状況ですが、地域の協力を得て、地域と繋がる行事を実施することが出来るようこれからもつとめて行きます。

○児童健全育成

誰でも利用できる居場所としての機能として、「何ができるのか」という視点を変え、実施できるよう心掛けました。利府町東部児童館との共催事業「自然体験デイキャンプ」や子どもたちからの発信力を大切にし、「はやく元気になあれプロジェクト」を立ち上げ、子どもたちの手作り作品を町のお店等に飾ってもらう「ゆきだるまーけっと」やなかなか会えないお友達に笑顔と元気を届けたく「NHKやっぺえたいそう」出演など実施することができました。コロナ禍の環境のなか、子どもたちや保護者の不安な気持ちの話を聞いたり、小中学校や

町の担当課とも連携を図り、公園での子どもたちの遊びを見守り、情報交換を密に行ってきました。

○子育て

保護者や日中見守りをしている祖父母などに幼児の成長に関わる必要な情報提供をおこないました。乳幼児期の子育ての不安やストレス解消の支援、保護者の仲間作り、子どもの友だち作りの支援等も行うとともに虐待やDV、発育遅滞などの早期発見を心がけました。

○地域交流推進

年数回実施している菅谷台保育所交流事業を通じて、未就学児との交流を図ってきました。また、アウトプットだけではなく、「面白さ」「楽しさ」を仲間と共有できるように年間での活動を意識し、必要に応じて外部機関との連携を図りながら活動を充実させてきました。

○放課後児童クラブ

子どもの健全な育成と遊び及び生活の支援、保護者との連携、こどもの発達理解を柱に、自発的に児童クラブで過ごせるよう生活の中に①あそび②くつろぎ③生活習慣の定着④自主学習⑤集団生活での必要なこと⑥静養等を意識しデイリープログラムを充実させてきました。また、利府町東部児童館や利府町統括とこまめに連絡を取り、児童クラブの子どもの環境を整えてきました

■利府東部児童館

児童の権利に関する条約に掲げられた精神及び児童福祉法の理念に則り、「子どもの心身の健やかな成長、発達及びその自立が図られる事を地域の中で具現化する児童福祉施設」を踏まえ児童館ガイドラインに沿った運営を念頭に、西部児童館と積極的かつ主体的に参加する環境作りを進めました。新型コロナウイルス感染症の影響により事業の自粛をおこないましたが、可能な範囲で行事を積極的に行い地域の方々との交流や児童館の周知に努めました。

○児童健全育成

コロナ禍により、参加人数や時間の制限、飲食行事の自粛等が行われましたが、浦戸諸島でデイキャンプを行う「海で遊ぼう」や、児童館全体を使った「お店で遊ぼう」等の大型行事を感染対策を行いながら開催しました。

また、カプラタワー、スノードーム制作等、多くの行事を開催し、子どもたちの交流やグループ活動に繋げました。

○子育て家庭支援

乳幼児の成長に関わる情報を提供しました。また、子育ての不安・ストレス解消の支援、保護者の仲間作り、子どもの友だち作りの支援等も行うと共に、虐待やDV、発達遅滞等の早期発見をこころがけました。

名札を作成し、名前を呼び合えるよう工夫し、年間100枚の名札を乳幼児エリアの壁に飾り再来館した際に入りやすい雰囲気的大事にしています。

水遊びやクリスマスパーティー等の魅力的な行事を開催し保護者同士の交流に繋げました。

○地域交流推進

葉山保育園との交流事業を開催し、未就学児との交流を図りました。

また、地域の方を対象とした行事を実施し、地域の方やスタッフとの交流に繋げ児童館の周知も行いました。「児童館だより」を葉山町内会へ班ごとに配布して回覧し、児童館の事業の理解と健全育成への協力を発信しています。

○放課後児童クラブ

クラブ活動を始め、児童館の畑を使った農業体験やヒマワリの生育、トカゲや金魚等の飼育を行いました。良い事をした際にシールが増える「いいねグラフ」の導入により、掃除や活動準備の手伝いを楽しみながら積極的に行う習慣が身につきました。

児童クラブ対象としてバルーンアートや宝探しビンゴゲーム等多くの行事を開催しました。

また、1年生に向けた「はじめましての会」や全員参加のお楽しみ会を行い、児童の関わりや繋がりをより一層深める機会としました。

■利府町児童クラブ

放課後児童クラブ運営指針に則り、放課後児童健全育成事業を行うことを念頭に、児童の過ごしやすい環境づくりを進めてきました。

また、円滑な児童クラブ運営のため、職員間や利府町内5つの児童クラブ内でのミーティングを重ね、全体での情報交換を行いました。コロナウイルス感染症による児童の生活の制限はまだ続いているますが、感染症対策を徹底して通常通り開設しています。

○児童健全育成

児童への適切な関わり方を学ぶため、積極的に研修等に参加するよう心掛けました。コロナ過のため規模は縮小していますが、ハロウィン、クリスマス、節分等、1年を通して季節を味わう行事を行いました。年齢や発達の状況が異なる児童を同時に育成支援するため、職員間の情報の共有等は特に注意しました。

○子育て支援

迎え時に家庭での様子や児童クラブでの様子など、保護者と職員で共有できるよう積極的に関わりを持ちました。支援の必要な児童については、適切な支援が出来るよう特に保護者と連携するよう心掛けました。

○地域交流推進

花園財団の助成金で各クラブに100冊ずつ児童書を購入したり、更生保護女性会の方により盆踊りを教えていただいたり、二小、しらかし台小にて人権擁護委員の方々となでこの花植え等々、コロナ過ではありますが、出来る範囲で地域の方と出会う機会を持ちました。今後も相互にメリットのある関係が続けていきます。

○放課後児童クラブ

利府町内5つの児童クラブや児童館と連絡を取り、コロナ禍での各小学校、クラブの生活スタイルを共有し、児童が安心安全に過ごせる環境設定を図りました。各クラブ登録人数が増える中、職員の人数が足りないながらも怪我だけは無いよう注意し、日々の生活を送っています。今後も登録人数が増えることが予想されるため、今の環境や限られたスペースでどう過ごしていくかを考えていきます。

■大郷町児童館

- 児童館利用者数(自由来館者数)を月間延べ人数平均値で令和2年度と比較したところ、月によって30~350人と差がありますが、平均すると190人程度少ないことがわかりました。くわえて未就学児、小学生~高校生、一般という風に“年代別利用者”の月間延べ数の平均値比較ではそれぞれの年代で令和2年度より約7割減、約1割減、約5割減という結果でした。新型コロナ対応で1週間程度の短期的な臨時休館時の数値数回分も紛れているとはいえ、定期的に行事参加などで来館していた乳幼児親子の足が遠のいていることから「全体的に利用者が減っている」という印象はとても強いです。他方、利用者数と行事参加者数それぞれの月間集計値から“行事参加率”を算出し年間平均したところ、令和3年度は約39%、実際の数では約90人が毎月「行事参加を目的に利用している」ことがわかりました。しかし、母数である利用者数の大多数である小学生らの来館目的は、「館のすぐ隣にある小

学校」という立地から考えると「保護者のお迎えやスクールバス待ち」が大半を占めています。

つまり、純粋に「児童館に遊びに（行事参加しに）来た」という利用者数はデータ上よりも少なく、とすれば月間約90人という参加者数そのものと大差ないのかもしれませんが。

児童クラブに関しては、先述とは反対に“登録数”、“平均利用者数”および“利用率”のいずれについても令和3年度の方が高い数値が示されました。特に“利用率”は令和2年度より約10%向上した62%となり、児童クラブのニーズに多少なりとも応えられた結果が反映されたのではないかと感じています。

今後は「こうなさい」や「今日は〇〇をしますよ」という大人主導ではなく、子ども達の「こうしてみたい」が実現できるように、「主体性」がより引き出されるような「子ども達との関わり方」をもっと実践していきたいと考えています。

いずれにしても、利用者や行政の要求に応えるべく、またコロナの収束後に準備を始めるのではなく収束と同時にスタートできるように自身やスタッフのスキルアップに日々つとめます

■大和町吉岡児童館

今年度に入っても、新型コロナウイルスの感染拡大は収まりませんでした。宮城県独自の緊急事態宣言を受け、吉岡児童館は4月7日から自由来館利用が中止になりました。5月12日から乳幼児親子の自由来館利用は再開しましたが利用者が戻るまでにはしばらくかかりました。6月に吉岡小児童に感染が確認されたため臨時休校、吉岡児童館も臨時休館になりました。感染の状況により自由来館の中止、利用自粛、解除が繰り返し行われました。2月に2度の小学校休校による臨時休館があり、なお一層の感染予防を求められました。

○ [吉岡児童館事業]

乳幼児親子事業は5月に「しがちゃんのえのぐ遊び」から始めました。出来上がった作品は児童館に飾っています。「幼児クラブ」は年間を通してほぼ行うことが出来ました。自由来館親子向けの「遊びweek」「mamaのほっとサロン」では、児童館が子育て支援の施設であることをアピールできたと思います。

昨年に続き児童館まつりは中止しましたが、感染が落ち着いていた11月に、生涯学習課と共催で行った「親子でカプラ」は、子ども以上に保護者に楽しんでもらえました。

「あきらちゃん・ジャンプくん歳忘れコンサート」は、児童クラブが中心となり、児童支援センターの親子向けに開催しました。ご褒美に、あきらちゃんたちに午後コンサートをやっていたいただき小学生たちも楽しみました。

公園の一部を借りキュウリやトマトなどを栽培収穫し来館者にプレゼントしました。公園の梅で作る「梅ジュース大作戦！」は、夏休み中の熱中症対策に大活躍でした。

児童クラブ発案でバレンタインデーに併設施設のディサービス利用者にサプライズプレゼントを送ったところ、お返しホワイトデーにおもちゃをいただきました。

広く告知をしての事業ができませんでしたが、日常の遊びを充実させ、季節の行事遊びも様々な行いました。

■よしおか放課後児童クラブ

新型コロナウイルスの脅威が未だに続く中8年目を迎えることとなりました。

令和3年度も昨年同様コロナにかき回される1年だったかと思います。昨年に比べると、世の中がコロナに対しての向き合い方に慣れてきたため、昨年ほどの制約はないものの、引き続き迎えを玄関のみでの対応、各テーブルにパーテーションの設置、おやつなどを時間別に行うなどの感染症対策を行いました。また、個別支援が必要な児童への対応に力をいれ、ミーティングや申し送りなどで子どもたちの状況をスタッフが把握できるようしました。

○農業倶楽部

5年目を迎え、育てる野菜の種類も増えましたが、3年度より耕運機を導入したことにより畑の面積も一層広くなり、収穫量も増えてきました。

採れた野菜は、例年であればカレー作りなどの行事に使用していましたが、コロナ渦ということもあり、野菜は子どもたちに配布し、各家庭で味わって頂く形となりました。

4年度より、「0円農業」という取り組みも始動し雨水の活用・堆肥作りなど、よりSDGsに取り組みやすい環境を作って行きたいと思えます。

○おおきなかぶプロジェクト

高学年を中心にかぶの育成を行いました。おおきなかぶは大和町とも深いつながりがあるということ子どもたちと学びながら、また野菜を0から育てるということがいかに大変なのかを知る機会となりました。

実は小さかったものの、次回への課題などを見いだすことが出来ました。

■こじゅうろうキッズランド

2021年8月に開館3周年を迎え「大道芸まつり」を開催し絵本作家あべ弘士さんオリジナルマスキングテープや子ども無料券を配布しました。隣接施設みのりキッチンではキッズプレート割引券を、おもしろいし市場ではミニソフトクリーム券を提供していただき、しろいしSun Park全体で3周年を祝うことができました。

11月には来場者が20万人を突破し、山田市長やポチ武者こじゅうろうと共に祝いセレモニーを行いました。来館者みんなで♪白石うーめん体操を踊って大いに盛り上がりました。♪白石うーめん体操の制作者であり、白石すまいるキッズアンバサダーの、たかはしあきらが施設長を務めているので、最大限に活用し、笑顔づくりにつながる活動をスタッフも参画して実施することができました。

来館者数を増加させる取り組みとして、遠足&ミニコンサートも展開しました。保育園・幼稚園の遠足に、あそびうたコンサートを付加しました。

また、「あきらちゃんオリジナルソング”ハッピーハッピーバースデー”」の歌をプレゼントし、その人だけの特別な日をお祝いしました。

来館した親子がプロに出会う機会として、大道芸パフォーマンスやよろず劇場とんがらし成田良二さんの人形劇、大工さんを講師にした木の椅子づくり、あべ弘士さんと動物の絵のバッグづくりを企画しました。アトリエ自遊楽校の志賀ちゃん、ひろみちゃん、モンブランくんの創作ワークショップではスタッフも学べる良い機会となりました。食育イベントでもプロの料理人や農家の方のお話を通して白石の地元食材の活用に貢献できました。

そんなイベントや日々の遊びの様子はYouTubeなどで発信し、魅力を伝えています。

今後も引き続き、コロナの感染拡大防止のために清掃・消毒の徹底を心がけ、様々な世代と一緒に楽しめる体験ができる施設づくりを進めます。

■子どもの丘保育所

4ヶ月間という短い準備期間を経て、2021年4月に小規模保育所としてスタートしました。0歳児4名、1歳児5名、2歳児4名、計13名の子ども達を迎えて保育が始まりました。毎日の保育や行事ひとつひとつについて職員間で話し合い、子ども達だけでなく、保護者の皆さん、地域の皆さんも一緒に楽しめるように考え進めてきました。また、「保育の見える化」を図るために、ドキュメンテーションの作成や、ブログの公開、その日の活動の様子をデジタルフォトフレームで公開するなどしました。そうすることで、そこから会話が生まれ、保護者との距離を縮めることができ、さらに、涌谷町内の方からも「ブログを見たよ」と声をかけてく

ださるようになりました。

2022年4月には、社会福祉法人遊創の森として、新たなスタートを切りました。これからは、涌谷町でしかできない保育の提供、子どもたちが主体的に遊び込める環境づくり、保護者や地域の皆さんが「お茶っこ飲むべ」とひと休みできる場所づくりを目指してまいります。保育を提供する場として、定期的な職員研修を行い、保育の質の向上に努めます。また、涌谷町内で研修会を開く等して、町全体で質の良い保育の提供を目指せるよう働きかけてまいります。

■子どもの丘子育て支援センター

「地域に開かれた子育て支援センター」を目標に掲げて、2021年2月に開所しました。開所当初は利用者が少なかったものの、SNSやチラシを使って広報活動をし、ワークショップやコンサート等のイベントを実施したりすることで町内の方々にも広く知っていただけたように感じます。その甲斐もあり、毎日のように利用者の親子が来てくれるようになりました。スタッフ間でも子ども達・保護者の方々の情報を常に共有して、利用者のみなさんに寄り添いながら関わることを意識しています。

また、当支援センターのスタッフは支援センターでの活動経験がほとんどなかったため、近隣の支援センターにもご協力をいただきながら、運営の仕方や利用者とのかかわり方など1から勉強をさせていただきました。地域の子育てボランティアをしている団体からもイベントの度に、お手伝いをいただいています。地域のみなさんのご協力なしでは、ここまで運営はできませんでした。本当に感謝です。併設されている子どもの丘保育所の先生たちも含め、地域のみなさんが利用者の方々にたくさん声をかけてくれるため「地域みんなで子育てをする」という良い形が作れてきていると思います。

③宮城県中央児童館跡地活用

○具体的な進展はありませんでした。遊園部分は仙台市の管轄になっていますが、本館の敷地は売却されており、現在は住宅地となっています。

④関係団体との連携・ジュニア・リーダーやボランティアの育成

○理事長の平山は宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会の監事を、利府西部児童館の永浜館長は理事をつとめました。副理事長の新田新一郎は、公益社団法人全国子ども会連合会の理事をつとめ、引き続きジュニアリーダー・シニアリーダーの育成に協力しました。

宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会の事務局は引き続き当法人の本部内にあることも含め、かつて宮城県中央児童館ゆかりの3団体それぞれと連携を深めることができました。

⑤市町村の指定管理者の公募

○2021年度末に契約期間が終了する以下の施設、引き続き運営を委託されることができました。
仙台市岩切児童館／芦の口児童館／利府西部児童館

⑥魅力的な研修会の実施報告

○NPOみやぎ・せんだい子どもの丘主催の自主研修会

本年度は内部研修を24回実施し延べ526名の職員が参加しました。また、仙台幼児保育専門学校のSEN-YOマイスター講座(年間4回)を12名受講し、利府町文化交流センターリフノス開催の催しを研修に位置づけ、5つのイベントに延べ132名が参加しました。

新田副理事長に仙台、涌谷、白石の会場を巡回頂き、コロナ禍にあっても動じない心を持つ大切

さや、子どもたちの明るい未来をイメージし行動することなど、法人のめざす方向性を再度確認する研修を実施頂きました。

また、日本社会福祉弘済会の助成を受け、汐見稔幸氏、新沢としひこ氏、増田喜明氏、大竹英

洋氏など著名な方を講師に迎え、研修を実施することが出来ました。
施設マネジメント研修を千葉康子理事に、チーム力向上研修を荒川和浩利府東部児童館館長に
講話頂き、組織としての在り方も学ぶ機会を作りました。
また、「ボードゲーム」「自然体験」「音あそび」「大道芸」を特技に持つ職員が講師となり、
他の職員に伝達するワークショップ型研修を行ったことや、各館の中核を担う職員を集め、企
画について学び、職員で協力しながら立案、実践に至る「プロジェクト研修」を年6回開催す
るなど、自ら考え発信できる職員を育成する研修を多く行いました。
児童理解について、要支援サポート研修会を仙台地区、仙北地区に分かれ行いました。各地区
で開催された講座を担当職員が受講し、さらに講師には実地訪問ならびに支援に関する技術的
アドバイスを頂きました。コロナによる心理的ストレス、体験活動の減少による丁寧な支援の
必要性が増したこともあり、専門家のサポートが非常に重要だったと感じる一年でした。

⑦社会福祉法人の設立・助成金・補助金

「子どもの丘保育所」を4月に開所し、社会福祉法人格の取得に向けて取り組みました。

「社会福祉法人遊創の森」は、3月17日付けで宮城県から認可をうけ、3月25日に法務局
に登記しました。

■イベント報告

○夢のいえ 未来のまち ワークショップ

□助成金額 : 1,000,000円

□助成団体 : 積水ハウスマatchingプログラムの会

○荒井良二&あべ弘士&増田喜昭 ワークショップ

・開催日時 : 2021年5月2日(日) 14:00~15:30

・講師 : あべ弘士、増田喜昭、荒井良二

・会場 : 宮城県美術館

・参加者 : ワークショップ参加 小学生30名、観覧100名

○絵本作家 荒井良二&あべ弘士 ライブペインティング

・開催日時 : 2021年5月3日(月祝) 13:00~15:00

・講師 : あべ弘士、荒井良二

・会場 : 白石市こじゅうろうキッズランド

・参加者 : 観覧者 200名

○木のイスをつくろう!

・開催日時 : 2022年3月13日(日) 13:00~15:30

・講師 : 株式会社みのり建築舎 大工2名

・会場 : 白石市こじゅうろうキッズランド

・参加者 : 小学生15名、観覧者 37名

○子どもと関わる大人の現場ですぐに役立つ研修会

□助成金額 : 500,000円

□助成団体 : 公益財団法人 日本社会福祉弘済会

①『教育・保育 最前線でいま 子どものかわる大人に伝えたいこと』

・開催日時 : 2021年10月2日(土) 10:00~12:00

・講師 : 汐見稔幸

・会場 : 仙台幼児保育専門学校 大ホール

②『子どもの歌がもっと楽しくなるために』

・開催日時 : 2021年10月10日(日) 10:00~12:00

・講師 : 新沢としひこ

・会場 : 仙台幼児保育専門学校 大ホール

③『大人から子どもまで楽しめる「冒険」対談』

・開催日時 : 2021年11月21日(日) 13:00~15:00

・講師 : 増田喜昭、大竹英洋

- ・会 場 : ベネシアンホテル白石蔵王 ローブルーム
- おだづもっこキャンプ2021
 - ・開 催 日 : ① 2021年7月28日(水) 7月29日(木)
 ② 2021年8月2日(月) 8月3日(火)
 ③ 2021年8月4日(水) 8月5日(木)
 ④ 2021年10月16日(土) 10月17日(日) ※8/18・19コロナ中止の振替
 - ・会 場 : 中山平温泉「仙庄館」、鳴子峡大深沢(沢活動)
 - ・参加費 : 1人 6,500円(宿泊費1泊3食付、交通費、保険料込)
 - ・参加人数 : ①小学生20名(よしおか放課後、大郷、利府東部、利府小児ク 対象)
 ②小学生22名(利府西部、吉岡児 対象)
 ③小学生24名(錦が丘、通町、荒巻・立町マイスクール対象)
 ④小学生24名(岩切、鶴巻、八本松、芦の口 対象)
- 仙台白菜物語 ～地域の魅力再発見～
 - 助成金額 : 300,000円
 - 助成団体 : 公益財団法人 ノエビアグリーン財団
 - 実施施設 : 仙台市立町マイスクール児童館、荒巻マイスクール児童館
 - 講 師 : 仙台大学附属明星高等学校
 - 協 力 : せんだい農業園芸センター、西公園プレーパーク
 - ・開 催 日 : ①2021年5月22日 ②2021年6月19日 ③2021年8月28日 ④2021年9月17日
 ⑤2021年9月21日 ⑥2021年10月9日 ⑦2021年12月11日 ⑧2022年1月
 22日 ⑨2022年3月19日 ⑩2022年4月16日
 - ・企画場所 : ①「白菜のふるさとに行ってみよう」 浦戸諸島野々島
 ②「味噌を仕込んでみよう」 立町、荒巻MS児童館
 ③「仙台白菜 定植会に行ってみよう」 せんだい農業園芸センター
 ④「宇宙から帰ってきたタネを蒔こう」 立町、荒巻MS児童館
 ⑤「ぼく達わたし達の畑に定植しにいこう」 せんだい農業園芸センター
 ⑥「野々島へ白菜の苗を植えに行こう」 浦戸諸島野々島
 ⑦「白菜を収穫しにいこう」 せんだい農業園芸センター
 ⑧「みそdeスマイル」 立町MS児童館
 ⑨「火起こし&野外白菜調理」 西公園プレーパーク
 ⑩「白菜の花(菜の花)鑑賞&野々島探検」 浦戸諸島野々島
- ユース世代が集える居場所 ～八本松 youth base～ ∞ base(エイトベース)
 - 助成金額 : 300,000円
 - 助成団体 : みやぎ生協 福祉活動助成金
 - 実施施設 : 仙台市八本松児童館
 - 概 要 : ユース世代の居場所づくり(イベント実施、楽器・iPad等の購入)
 - ・開 催 日 : 毎週土曜日
 - ・企画参加 : ①2021年7月17日 5名
 ②2021年10月9日 10名
 ③2021年11月13日 2名
 ④2021年12月18日 8名
 ⑤2022年1月15日 3名
 ※その他の月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑧処遇改善

2021年度の放課後児童支援員への処遇改善について、仙台市では『放課後児童支援員等処遇改善等事業』、大和町・利府町・大郷町では『放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業』の手当を支給しました。

大和町児童支援センター、白石市こじゅうろうキッズランド、本部事務局は対象でないため、処遇改善手当の支給はしませんでした。

当団体では、処遇改善の対象であるなしに関わらず、正規職員の全員に対し毎月の基本給に2,000円上乗せして支給していました。児童館・児童クラブの職員に対しては処遇改善の前渡し金として精算し、大和町児童支援センター、こじゅうろうキッズランド、本部事務局職員に対してはベースアップ分としました。

■ 2021年度活動報告についての承認

- 永浜議長は、出席者に2021年度の活動報告について承認するか否かの判断を求め、出席者全員の賛成により原案通り承認されました。

(4) 2021年度 決算報告

■ 2021年度決算

- 総収入は791,323,439円(予算694,733,230円)で予算比円増(113.9%)
昨年(17期)の総収入は705,667,666円でしたので、昨年比85,655,773円増(112.13%)
 - 事業収入は、昨年比64,821,855円増の746,319,315円です。これは、契約の更新に伴う指定管理料の増額と、新型コロナウイルス感染拡大防止のための補助金にくわえて、子どもの丘保育所開設に伴う収入増です。
 - こじゅうろうキッズランドの入場チケット売上代金は14,486,520円で、昨年8,026,920円より6,459,600円増加させることができました。
 - それ以外の収入(会費・助成金など)は、30,517,604円で全体の3.85%でした。
- 売上原価、販売費及び一般管理費合計は747,916,799円で、昨年602,605,635円に比べて145,311,164円増(124.11%)。
 - 人件費合計は574,553,509円で昨年496,707,910円に比べて77,845,599円増(115.67%)。総支出の76.82%でした。
- 福利厚生費として、新型コロナウイルス感染拡大に尽力したことに対するお見舞金として、職員に総額889万円(昨年850万円・昨年比+40万円)を支出しました。
- 退職金として7,690,800円(昨年753万円)を積み立てました。
- 税引き前当期純利益金額は43,857,091円。
法人税、住民税及び事業税は22,925,000円。当期純利益は20,932,091円です。

■ 監査報告書 監査日5月19日10時(別紙 P7. P8)

2022年5月19日午前10時より、鈴木忠夫監事・伊澤哲雄監事は監査を実施しました。
監査の結果、法人の業務は法令・定款・及び2021年度の活動方針、事業計画に基づき適正に処理されているものと認められました。

■ 2021年度決算についての承認

- 永浜議長は、出席者に2021年度の決算について承認するか否かの判断を求め、出席者全員の賛成により原案通り承認されました。

(5) 2022年度 活動計画

■ 2022年度事業計画

① 子どもの笑顔・元気プロジェクトの活動を続けます。

今年度もコロナウィルス感染拡大防止のため、様々な制限を受けながらの活動となりますが子どもの笑顔と元気を守る取組を続けます。

② 運営している施設での活動内容の充実を図ります。

地域における実践の場として、指定管理者・業務委託者として運営を行っている児童館・児童クラブでは活動内容をより一層充実することと、外に向けて広く情報を発信する取り組みをすすめます。

市町村とは文書をもとに協議し、白石市こじゅうろうキッズランドをはじめ、各施設とも多くの親子に支持される安全で楽しい運営を続ける努力を行います。

③ 中央児童館の跡地の活用に向けた取組を行います。

④ 関係団体との連携やボランティアの育成を行います。

宮城県児童館放課後児童クラブ連絡協議会、仙台市内児童館連絡協議会、全国子ども会連合会宮城県子ども会育成連合会、宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会などの関係団体と連携を深めます。

⑤ 市町村の指定管理者の公募

市町村の募集する児童を対象とした施設の指定管理者として応募し、地域での活動拠点の充実を図ります。そのためにも各市町村とは、運営費用も含めた協議を丁寧におこないます。

現在、当法人が運営を行い今年度末に契約が満了する利府東部児童館／大郷町児童館／こじゅうろうキッズランドにおいては、引き続き運営を続けられるよう応募します。

ただし、公募の際に示される指定管理料・業務委託費で本部事務経費を含む運営経費をまかなえないと判断した際には、応募しないこともありえます。そのために行政とは、現在の施設の運営管理者として運営予算を提起します。

また、新たに設立した「社会福祉法人遊創の森」として運営することも見通して、行政と調整します。

⑥ 魅力的な研修会を年間を通して実施します。

<目的>

児童館・児童クラブ職員には児童の成長と発達を継続的に見守り、共に活動しながら健全な育成を支援する職責があります。組織として知識、技術を備えた人材を育成する研修体系を設け必要な専門的なスキルを学べる機会を確保するとともに、講師については団体のネットワークを活用し、当団体にしかできない魅力的で充実した内容で開催します。

また、従来の子ども環境への課題に加え、新型コロナウイルスや社会情勢の変化に伴う対応が求められている現状にも臨機応変に対応し、研修の追加や内容の変更なども柔軟に行います。内部研修のねらいとして、専門的な学びを深めるという意識だけでなく、担当業務や経験年数など他館職員と情報共有、連携しやすい関係性作りの場としても意識します。研修を通して、主体的な活動に繋げることも意識し、横やななめの繋がりを強化するとともに、法人内の職員が同じ方向性で職務にあたるよう、様々な情報やものを柔軟にやり取りできる関係性を築き上げます。

⑦ 助成金や補助金などを確保し、体制強化に引き続きつとめます。

⑧ 処遇改善

2022 年度も放課後児童支援員の処遇改善について実施する仙台市、大和町、利府町、大郷町の対象となる職員については、処遇改善の先払いとして毎月の給与に 2,000 円上乗せして支払い、行政から処遇改善費が支払われた後、対象者に残額を支給します。
時間で契約するスタッフについては、時給に処遇改善前渡し金として 100 円を上乗せした金額を支払います。

■ 2022 年度 活動計画についての承認

- 永浜議長は、出席者に 2022 年度の活動計画について承認するか否かの判断を求め、出席者全員の賛成により原案通り承認されました。

(6) 2022 年度 収支予算案

■ 2022 年度予算案

- 収入予算は 666,532,110 円。昨年実績 791,323,439 円に比べると 124,791,329 円減。(84.2%)
これは子どもの丘保育所が離れたこと、コロナ関連補助金と処遇改善の金額が確定していないためです。昨年の予算 694,733,230 円と比べると 95.94%になります。
 - 助成金の現在の予定金額は、当法人に対して「財団法人日本社会福祉弘済会」から 50 万円。
 - 会費収入は 45 万円を見込みます。

○支出予算は 666,510,000 円。

- 人件費の合計予算は 565,100,000 円で昨年実績 574,553,509 円より 9,453,509 円減で、総支出の 84.78%とします。
- 昨年は、理事長と副理事長 1 名に給与・賞与を支払いましたが、今年度は理事長にだけ給与・賞与を支払います。それ以外の理事は現状通り無給とします。
- 児童館だよりは引き続きプランニング開のデジタルリソグラフ機を利用し、A3 版両面でカラー印刷することを基本とします。
- その他の経費は、昨年の実績をもとにしています。引き続き経費の削減に努力します。

○退職金の原資として 1,000 万円の予算を見込みます。

○税引き前当期純利益金の予算は 22,110 円とします。

※社会保険加入義務拡大のために、法定福利費の法人負担分が増加するために、余裕がありません。

赤字での施設運営は続けることはできません。これまでの収支実績を確認し、赤字の解消が見込めない場合は、次回の公募に応募しないことや契約年度途中であっても協議の上で運営を辞退することもあります。

そのために経費削減にさらに心がけてください。。

■ 2022 年度予算の承認

- 永浜議長は、出席者に 2020 年度の予算について承認するか否かの判断を求め、出席者全員の賛成により原案通り承認されました。

(7) 就業規則・給与規定の変更

○就業規則第16条の改変

改変根拠：利府町・大和町の毎週土曜日開所にともない、開所日・時間、業態の実情に合わなくなったため。

(休日)

第16条 1. 所定休日は次のとおりとする。

- ① 休日は4週につき8日以上とするが、具体的な日は各施設ごとに勤務表にて各人別に明示する。

○給与規定の改変

(賃金の体系)

第4条

③処遇改善臨時特例交付金による手当

(特別手当・主任手当・処遇改善手当・処遇改善臨時特例交付金による手当)

第7条

3. 処遇改善臨時特例交付金による手当は、「放課後児童支援員等処遇改善臨時特例交付金の支給に関する規定」により、法人が定める額を加算するものとする。

○放課後児童支援員等処遇改善臨時特例交付金の支給に関する規定(別紙 P9)

●永浜議長が出席者に賛否を問い、全員一致で就業規則の変更を承認しました。

(8) 36協定(時間外、休日労働に対する協定)

●総会で従業員の代表者を選出し、その代表者と理事会は、これまでと同様に労使協定(36協定)を締結することを提案します。

○労働時間の延長の限度

・1週間→15時間 / 2週間→27時間 / 4週間→43時間
1ヶ月→45時間 / 2ヶ月→81時間 / 3ヶ月→120時間 / 1年間→360時間

○労働者の代表の選出

●小泉節子氏(仙台市立町マイスクール児童館館長)が立候補しました。永浜議長が出席者に賛否を問い、全員一致で小泉節子氏を従業員代表とすることを承認し、36協定を締結することに賛成しました。

(9) 役員改選

●平山理事長が、前年度の理事が引き続きつとめることを承認していただきたいと提案しました。

■新年度役員の承認

●永浜議長が出席者に賛否を問い、全員一致で新年度役員を承認しました。

●その後、理事会を開催し、理事の互選により下記の通り役割を決定いたしました

■新年度役員

●理事長	平山 乾悦	(プランニング開/宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会監事/元宮城県中央児童館ボランティア)
副理事長	安藤 正樹	(尚綱学院大学教授/全日本独楽回しの会会長)
副理事長	新田 新一郎	(プランニング開代表/全国子ども会連合会理事 仙台幼児保育専門学校 校長)
理事	伊藤 俊子	(元宮城県中央児童館職員/みやぎ子どもの文化を支援する会)
理事	佐々木 とし子	(宮城県地域活動(母親クラブ)連絡協議会会長)
理事	佐藤 真紀子	(宮城県子ども会育成連合会会長)

理事	志賀 圭子	(アトリエ自遊楽校楽長 ／宮城教育大学・仙台大学・仙台幼児保育専門学校非常勤講師)
理事	志賀 善之	(元大和町杜の丘児童館館長／本部事務局職員)
理事	千葉 康子	(元通町児童館館長／元宮城県中央児童館職員)
理事	松村 弘美	(プランニング開／社会福祉法人遊創の森 理事長 ／仙台こども専門学校非常勤講師)
監事	伊澤 哲雄	(元中学校長／元中央児童館ボランティア)
監事	鈴木 忠夫	(司法書士法人鈴木忠夫税理士事務所所長)

(10) その他

- 新田副理事長から昨年度の振り返りと、今年度の活動についてプロジェクターを用いての説明がなされました。今後、当法人が運営委託を受けている利府町・大和町・大郷町の施設については、社会福祉法人遊創の森に移管していく方針を示しました。
- 永浜議長が出席者に質問・意見を募りましたが、発言はありませんでしたので、永浜議長が全ての議事について、提案通り承認されたことを宣言しました。

■議長解任／閉会

- 平山理事長が議長の解任と閉会を宣言し、2022年度の総会を閉会しました。